

「アジア地域のセリアック病患者の割合を推定するための試験的調査」に関する研究

1. 研究の対象

すでにこの研究について、同意を頂いている患者さんで、防衛医科大学校および研究参加施設で過敏性腸症候群と診断された外来患者さんが対象です。

2. 研究目的・方法・期間

セリアック病は、小麦・大麦・ライ麦などに含まれるタンパク質の一種であるグルテンに対する免疫反応が引き金となり、腹痛、下痢、脂肪便などの症状を呈する自己免疫疾患です。1970年代まで、セリアック病は西欧諸国を除いてあまり知られていない疾患でしたが、近年の検査技術の向上に伴い、その疾患概念が明らかになりつつあります。セリアック病の有病率は、世界人口の0.7%とされているものの、その8割強の患者は、セリアック病と診断されず、過敏性腸症候群などの他疾患と誤診されているという報告も為されています。また、多くのアジア諸国では、セリアック病は存在しない、もしくは極めて稀な疾患と考えられています。一方インドでは、セリアック病は広く認知されており、インド国内の23000名を対象とした大規模スタディでは、600~800万人のセリアック病患者が存在し、その大部分が診断されないままにいるという報告が為されていました。また、マレーシア、中国、日本、シンガポールでの研究でも、それぞれの国でのセリアック病患者の存在を示唆しており、更に、アジア人の0.6%にセリアック病患者が存在することを示唆するメタ解析の報告もあります。インドネシア、韓国、台湾等の国からは、報告は未だ為されておられません。したがって、アジア各国の医学会間で、セリアック病の病態を解析することが望ましいとかがえます。本研究は、アジア各国において、セリアック病のハイリスク群と判断された群における、セリアック病患者の割合を予測するための試験的調査を行うことを目的としております。

研究期間は、学校長承認後から令和5年9月30日までとします。

3. 研究組織

共同研究機関が追加されましたので一覧を掲載致します。

研究代表者 防衛医科大学校 内科学講座（消化器） 東山 正明

（共同研究者・共同研究機関）

All India Institute of Medical Sciences

Govind Makharia

製鉄記念広畑病院

木下 芳一

東京医科歯科大学

渡辺 守

資料 4

福岡大学筑紫病院	松井 敏幸
岩手医科大学	松本 主之
藤田医科大学	大宮 直木
大阪市立大学	藤原 靖弘
秋田大学	飯島 克則
東京慈恵会医科大学	猿田 雅之
東北大学消化器内科	正宗 淳
大阪医科大学消化器内科	中村 志郎
埼玉医科大学総合内科	今枝 博之
佐賀大学消化器内科	江崎 幹宏
順天堂消化器内科	永原 章仁
名古屋大学消化器内科	中村 正直
名古屋市立大学消化器内科	片岡 洋望
日本医科大学消化器内科	二神 生爾
滋賀医科大学消化器内科	高橋 憲一郎
福岡大学消化器内科	平井 郁仁
東海大学消化器内科	鈴木 秀和
札幌医大消化器内科	仲瀬 裕志
杏林大学消化器内科	久松 理一
愛知医科大学消化器内科	春日井 邦夫
島根大学消化器内科	石原 俊治
東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科	松岡 克善
旭川医大消化器内科	藤谷 幹浩
関西医科大消化器内科	長沼 誠
川崎医科大学消化管内科	塩谷 昭子
兵庫医科大消化管科	大島 忠之
弘前大学消化器血液内科	櫻庭 裕丈
自治医大消化器内科	矢野 智則
高知大学消化器内科	内田 一茂
新潟大学消化器内科	横山 純二
群馬大学消化器内科	浦岡 俊夫
久里浜医療センター消化器内科	水上 健
九州大学消化器内科	伊原 栄吉

研究事務局

アレルギー消化器疾患研究会(日本消化器病学会関連研究会)

世話人代表 穂苅量太

測定方法プロトコル担当

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先：

研究責任者

日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科 二神 生爾

住所 〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町 1-383

電話番号 044-733-5181